

令和３年度 第１回丸亀城石垣崩落対策本部会議録

１ 開催日時 令和３年６月１７日（木）午前１０時００分～午前１０時４０分

２ 開催場所 ４階 特別議室

３ 議 事

(1)令和３年度 第１回丸亀城石垣復旧専門部会（書面会議）について〈報告〉

- ・新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言のため、丸亀城石垣復旧専門部会（書面会議）を開催し、これまでに承認を得ていた三の丸、帯曲輪石垣の解体範囲に加え、地中部の见えていなかった石垣の追加解体範囲について審議をおこなった。承認された解体範囲は資料のとおり。
- ・まだ、根石や基礎地盤の確認に至らないので、今後、安定した基礎として使用できる石材が確認できるまで、記録を取りながら掘り進めるが、さらなる解体範囲の拡大も予想される。

(2)市長、市議会議員、報道各社への現場公開について〈報告〉

- ・三の丸の解体により、石垣基礎部のき損が予想以上に深い位置に及んでいることが判った。複雑な構造をもつ、解体前の石垣を見せることができるのは今しかないので、現場公開をおこなった。
- ・５月２５日（火）１３時～市議会議員、５月２７日（木）１４時～松永新市長、５月２８日（金）１０時～報道各社。それぞれ現場を公開し、文化財と土木の視点から説明した。

→市長より先に議会に説明を行った理由は何か。（モーターボート競走事業管理者）

- ・日程調整の段階で市長の都合が付かず、了承を得て、市議会に現場公開を行った。
（教育部長）

→これから先、事業費や工期が変わるのか。（モーターボート競走事業管理者）

- ・地中部でこれだけのき損が確認されたので、基礎として使用できる安定した地盤、または根石を確認しないと復旧検討に進めない。伝統工法を基本としながら、長期的な安定性確保のため、現代工法についても検討し、早期復旧を目指す。（丸亀城管理室長）

→工期延長、事業費増加については、十分な調査、説明を行えば、理解は得られると思う。将来にむけて、しっかり復旧してもらいたい。（モーターボート競走事業管理者）

- ・現時点での工程は当初より半年遅れとしているが、工事の完成が半年遅れるとはしていない。報道に現場を公開したところ、工期延長の布石かのような記事を書かれたが、工程 10%案を持ち寄るなどして工期短縮に努めている。完成目標は、当初のとおり、令和 6 年 3 月 31 日。（教育部長）

→地中調査は、この先、拡大していく可能性があるのか。（市長公室長）

- ・専門部会で承認を得た解体範囲に沿って、解体を進め、安定した地盤、または根石を探すことになる。災害復旧なので必要最小限の範囲で行う。（丸亀城管理室長）

→難しい現場で、地中調査をいつまでも続けるのであれば、工期延長をしかるべき時に発表しないといけないのではないかと。（市長公室長）

- ・これまでのボーリング調査で岩盤の位置を把握しており、ゴールはある程度把握している。（丸亀城管理室長）

→コロナ禍により対策本部会の分科会が、あまり動けていない状況になっている。コロナの収束に伴い、徐々に動き出してもらえたらと思うので、引き続き協力をお願いしたい。（教育部長）

4 出席状況

(1) 本部構成者（第 3 条）

職	氏 名	出欠
市 長	松 永 恭 二	○
副 市 長	徳 田 善 紀	○
教 育 長	金 丸 眞 明	○
モーターボート 競走事業管理者	大 林 諭	○
市 長 公 室 長	横 田 拓 也	○
総 務 部 長	栗 山 佳 子	○
健康福祉部長	宮 本 克 之	○
市民生活部長	小 山 隆 史	○
都市整備部長	吉 本 博 之	○
産業文化部長	山 地 幸 夫	○

ボートレース 事業局次長	福 本 泰 幸	○
教 育 部 長	七 座 武 史	○
消 防 長	田 中 道 久	○
議会事務局長	渡 辺 研 介	○

(2) 関係職員

市長公室職員課長	徳 田 寛
市長公室秘書政策課長	窪 田 徹 也
市長公室秘書政策課副課長	谷 本 智 子
市長公室秘書政策課政策推進担当長	宇 野 大志郎
市長公室広聴広報課長	奥 田 孝 彦
総務部財政課長	宮 西 浩 二
産業文化部産業観光課観光担当長	逢 坂 雅 和

(3) 事務局

教育部文化財保存活用課長	東 信 男
教育部文化財保存活用課副課長（丸亀城管理室長）	松 江 康 司
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室主査	真 鍋 和 江